

チョコレートを食べる私達とカカオを栽培するあの子達

外国語学部英語学科 3 年 牧瀬愛

私たちは日常的にチョコレートを目にし、口にしている。それはコンビニから高級百貨店まであらゆるところでしかも手軽な値段で手に入れることができるからだ。仕事の合間、食後、授業中にチョコレートをほおばっている人は必ずいるといっても間違いではない。このように今となって私たちの生活にチョコレートの存在は欠かせない。このような常識とも思えるチョコレートの日常化は日本だけではなくどの先進国でも同じであるようだ。実際にバレンタインデー、誕生日、ハロウィン、クリスマスなどのイベントでチョコレートは引っ張りだこである。しかしチョコレートを愛してやまない老若男女の大半は至福を味わう事のできるチョコレートの裏側に存在する黒い過去、そしてその存在が未だに多くの人を苦しめている現状に気付くことなく簡単にチョコレートを堪能している。チョコレートの原材料であるカカオがどのように、誰の手によって栽培されているのか、カカオの裏側にある連鎖を何人の人が壊そうとして失敗しているのか、そして何よりもカカオ農園で働く人々がチョコレートを見たことも口にしたりした事も更にはその存在すらも知らないという真実を知ってチョコレートを食べている人はそういないであろう。

この論文では昔からチョコレートすなわちカカオの魅力によって生まれた生産者と消費者の溝、そしてそれぞれコートジボワールの悪循環、エルセイボの好循環を紹介したあとその連鎖はどうすればなくなるか、そして私達にできることについて述べたい。

【主要参考文献】

キャロル・オフ著 北村陽子作 『チョコレートの真実』 (英治出版株式会社) 2007

ジョルジョ・アマド著 田所清克訳 『カカオ』 彩流社 2001

田中薫著 『アフリカ/顔と心』 片岡幸彦著 青山社 1986

八杉佳穂著 『チョコレート文化誌』 世界思想社 2004

ジャン＝ピエール・ポリス著 林昌宏訳 『コーヒー、カカオ、コメ、綿花、コショウの暗黒物語：生産者を死に追いやるグローバル経済』 作品社 2005